

4 学校と産業界、経済界等との連携の強化

キャリア教育を円滑に展開するためには、家庭、地域や企業等との連携を積極的に進め、学校外の教育資源を有効に活用することが不可欠です。

子どもたちの学びをより豊かなものにする上で、職場体験やインターンシップをはじめ、企業見学や社会人・職業人講話・インタビュー、大学等上級学校の見学、聴講及び大学等からの出張授業、図書館や美術館、博物館等での調査研究活動、福祉施設や幼稚園、保育所等でのボランティア体験などを、学校の実態や地域の状況を踏まえながら適切かつ積極的に実施する必要があります。

職場体験やインターンシップ等の体験活動の実施に当たっては、受入事業所等の開拓や講師等の選定をそれぞれの学校が行っている場合が多いようです。

体験活動をより円滑に実施するために、また、継続した取組みとして定着させるためには、学校と関係機関が一体となって取り組むことが大切です。このため、ハローワークや産業界、経済団体、PTA、地域の自治会等の協力を得て、体験活動推進のための協議会を組織したり、学校外の人的・物的な教育資源のリストを作成したりしましょう。

ポイント

- ① 学校から産業界・経済界等に幅広い情報発信
- ② 職場体験やインターンシップなどの体験的な学習を推進するための協議会の設置
- ③ キャリア・アドバイザーの確保及び継続的・計画的な活用
- ④ 学校と産業界・経済界が連携・協力して児童生徒を育成

手順及び留意点

1 キャリア教育の意義を、学校から産業界・経済界等に幅広く情報発信しましょう ■

留意点

産業界や経済界にキャリア教育の意義を理解していただいたり、学校の実践などを知っていただくため、啓発用のリーフレットを作成して配布したり、学習成果発表会等に招いたりすることにより情報を発信します。(※18)

資料

※18 P. 118～126

No.18 キャリア教育啓発用パンフレット例
(P. 118～120 : 大竹市地域)
(P. 120～126 : 竹原市地域)

2 職場体験やインターンシップなどの体験的な学習を推進するための組織（「キャリア教育推進協議会（仮称）」）を設置しましょう

留意点

第3章1「3 キャリア教育を推進するための組織づくり」(P.10,11)を参照してください。

3 キャリア・アドバイザーを確保し、継続的・計画的に招聘できるよう、対象となる人材の名簿づくりや人材バンク登録システムなどを構築しましょう

留意点

(1) キャリア・アドバイザー募集リーフレットなどを活用し、職種、経歴、年齢等、幅広い層からキャリア・アドバイザーを募集します。

(※19)

資料

※19 P.127,128

No.19 キャリア・アドバイザー募集リーフレット例
(P.127：大竹市地域)
(P.128：竹原市地域)

(2) キャリア・アドバイザーに登録していただいた方のリストを作成します。(※20)

資料

※20 P.129

No.20 キャリア・アドバイザーの人材リスト例
(庄原市立美古登小学校)

(3) キャリア・アドバイザーを活用した事例を事例集として整理します。

(※21)

資料

※21 P.130～133

No.21 キャリア・アドバイザー活用事例
(東広島市地域)

4 学校と家庭が連携・協力した実践

留意点

学校と家庭が連携・協力し、次に示す取組みを行います。

- ・ しつけ、子どもへの接し方
- ・ 家庭における役割分担、家事分担
- ・ 家族と働くことなどについての会話 等